

感謝の気持ちを持って

北海道岩見沢市立北村中学校

三年 河野 知世

私がおばあちゃんになったら、自信を持って年金を受けとれるでしょうか？今は、ただただ時間に追われるばかりの毎日です。いつも目の前のことに必死で、農家をして働いている親に、感謝の言葉もかけたことがありませんでした。この作文を書くことになって、「税」、について調べてみると、私が使っている教科書も、今こうやって学ぶ環境があることも、私の親を含め、日本中のたくさんの人が働き、そこで稼いだお金の中から、ちゃんと税金を納めてくれているからなのだと思いました。そんな中、私はこんな一文を見つけました。

「税はみんなで社会を支えるための会費といえるでしょう」「税金について何も知らなかった私にも、そのありがたいすんなりと伝わってきました。何だか「ぜい」って、いいものだなと心から思いました。そして、たくさんの方の努力が税金によって一つになり、私達の元へと返ってきていることも実感できました。これまでの私は何か物を買ったとき必ずついてくる「消費税」が私がお金を払えるちょっとした



今年3月、北村中学校の卒業式風景

会費、すら「何で払わなきゃいけないの?」「もったいない」と思っていました。あの文を読んで以来、身の周りの雑然とした風景たちが変わって見えてきました。居間にあるティッシュ箱、物置に置かれた教科書の山。それらは物陰に隠れるようにしてあるけれど、私の目には少しだけ光っているようでした。

午前十時五十七分。今まさに税金を稼いでいる人もいれば、ただ空を見つめている人もいるでしょう。そして私は「せい」の大切さを感じています。この世の中は決して不平等なんかにできていません。日本中の納税者の人達のように、人のために働いていれば、後から年金となって返ってきます。私が納税者になる前に、こういった持ちつ持たれつのかたまりをしっかりと学ぶことができて本当に良かったと、今改めて思います。

今は与えてもらうばかりの人生だけれど、いつか私が与える側の人間になるまで、それまでは、今という時を、感謝の気持ちを持って生きていきたいと思えます。それが今の私にできる精一杯の感謝の気持ちの表現だから……。

お父さん、お母さん、そして日本の納税者の皆さん感謝しています。ありがとうございます。

# 「税」中学生の思い

この作文は、全国納税貯蓄組合連合会が「税についての作文」として、中学生の皆さんに書いてもらったもので、北海道内では194校、8千944名の応募があった中、道内の最高賞である札幌国税局長賞を受賞したものです。

皆さん、読んでみてどうですか？

税金を払う人、使う人、そしてこのまちに暮らす人、それぞれが、改めて税金の大切さに気づかされたのではないのでしょうか？

税金は公平の原則のもと、皆さんが納め、皆さんの暮らしやすまづくりのために使われています。もし、税金を払わない人がいたら、それは公平ではありません。

税金は皆さんの生活に直結する貴重な財源なのです。そのため市は、皆さんに納期内の納税を呼びかけています。

今回は一人の中学生の作文しか紹介できませんでしたが、この中学生の税金に対する思いや気持ちを考えてみませんか。